

銅・アルミ

市況見通し

9月

銅

7月の伸銅品生産（速報値）は、前年同月比で1・3%増の5万8750ト。前年同月比では2カ月連続のプラスとなった。

7月の銅電線出荷量（推定値）は同1%減の5万1300トだった。



橋本アルミ取締役 橋本 健一郎氏レポート

銅輸出は、電気銅が同9・9%減の5万3510ト、銅スクラップ

9月銅市況予想レンジ

LME銅セツルメント	9500~10500ドル	横ばい
電気銅建値	144~159万円	横ばい
為替（1ドル）	146~148円 （1カ月間TTM）	横ばい

プが同51・3%減の4万254ト。
銅輸入は、電気銅が同50・8%増の487ト、銅スクラップが同26・2%増の3万1369トだった。

銅スクラップ景況予想

9月の銅スクラップ需給は供給余剰が続いているものの、安定状態といえる。市場の緊張感は強まっており、価格変動の可能性がある。

LME銅・為替予想

LME銅相場はやや弱いと予想する。需給の過剰構造や政策転換を警戒している。季節的・テクニカル分析では9月以降、反落のリスクが提示されている。

アルミ

7月のアルミ圧延品生産量（板類・押出類合計）は同1・5%減

の14万8807トとなり、前年同月比で3カ月連続のマイナスだった。

7月のアルミ二次合金・同合金地金生産は同4・6%減の6万2707トで、6カ月連続のマイナス。アルミ二次合金・同合金地金出荷は同5・2%減の6万2116トで、12カ月連続のマイナスだった。

輸出はアルミ新地金が同71・7%増の214ト、アルミ二次合金が同67・6%減の820ト、アルミスクラップが同5%減の2万8314ト、アルミ缶が同21・3%減の605ト。輸入はアルミ新地金だった。

為替予想は、米国の経済指標や日米の金融政策の動向がポイントとなる。

が同8・8%減の9万1925ト、アルミ二次合金が11・5%減の8万4690ト、アルミスクラップが同25%減の640ト、アルミ合金スクラップが同22・1%減の5844ト。

9月アルミ市況予想レンジ

LMEアルミ現物後場買い	2400~2650ドル （現物後場買い）	横ばい
スクラップ	プラス5~プラス10円 （前月最終価格より）	強い

アルミスクラップ景況予想

世界的にアルミスクラップの需給は非常にタイトな状態。特にEUは供給不足に対応するための政策を急ぎ、米国は高価格環境下でスクラップ活用を強化している。

LME在庫の急落も、需給ひっ迫を示す重要な指標といえるだろう。

